

蒲原—吉原間路線まきまる

工費は一四五億円を予定

昭和43年には全線が開通

東京—兵庫県西宮間を時速二〇〇キロのスピードを出して五時間半で突走る東海道幹線自動車国道のうち蒲原町—吉原市間（延長一九・八キロ）の路線が去る二月十四日に日本道路公団から関係市町に発表され、富士市では引続き二月二十二日勤労者会館で関係者七〇余名の参集を求め第一回の説明会を開きました。工事費は一四五億円を見込んでおり、日本道路公団では、地元の詳細が得られれば四月初めに中心線のクイ打ちを始め昭和四十年には七〇％の工事を完成させ四十二年には東京—名古屋間を運行開始したいという。

この正式に内示された藤原郡蒲原町神沢—吉原市伝法間の一九・八キロ区間のコースはまず神沢で国鉄東海道線を立体交差し山の手に入って日本軽金属蒲原工場の裏山をトンネルで貫通し、富士川町小池地区でさらに国鉄新幹線と立体交差、同町小山を經由して富士川を鉄橋で渡り、富士市に入り林町、四ツ家、貫井の田圃を通過して吉原市伝法のインターチェンジに至ることになっています。

道路の中員は一七・四メートルの四車線（一車線は三・五メートル）で実際は上下二車線の六車線といわれ更に三メートルの中央分離帯が設けられることになっています。

また富士川を渡る鉄橋の長さは一〇〇メートルになる見込みで、吉原市伝法にできるインターチェンジの広さは、

県下は四車線 時速百キロ

吉原にインターチェンジ

東海道幹線自動車国道（以下東名高速道路と略称）の調査は建設省において昭和三十四年度から昭和三十六年度にかけて、東海道交通処理対策として実施して来ましたが、その調査結果は、昭和三十六年八月に日本道路公団に引継がれました。

この間、昭和三十五年七月二十五日付をもって「東海道幹線自動車国道建設法」が公布されこの法律にもとづいて東名高速道路が建設されることになったのであります。

東名高速道路は、愛知県小牧市において名神高速道路と接続し、東京—神戸間の一連の高速

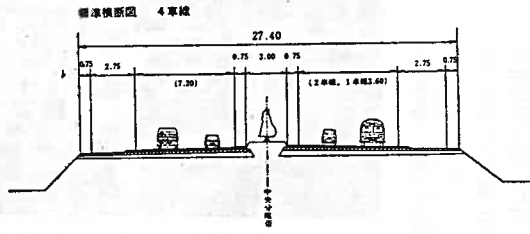
三万二平方から二万八平方メートルを予定しています。なおまた建設省の道路整備五カ年計画により三十四年と四十年までに吉原—清水間の工事七〇％を完成、四十三年には全線開通の予定。

なお道路公団では、更に吉原—沼津間の路線を五月中に、沼津—小山間の路線を十月までには内定、発表したい意向のようです。

は、全区間四車線となつています。

◇設計速度

東京都世田谷区から横浜まで 時速二〇〇キロ
 横浜市から秦野市まで 時速二〇〇キロ
 秦野市から御殿場市まで 時速八〇キロ
 御殿場市から静岡市まで 時速二〇〇キロ



◇サービスエリア

高速自動車道路の利用者が休息したり、食事をしたり、あるいはガソリンの補給をしたりするためには、適当な場所にそれらの施設をもつサービスエリアが必要であります。

このサービスエリアの施設としては、レストハウス、ガソリンスタンド、簡単な修理のできる自動車修理場等が考えられています。

◇バスストップ

諸外国の高速道路では、バスストップを設置している例は余りありませんが、わが国の旅客輸送の状況を考えますと、高速道路上を走る路線バスのためのバスストップを設置する必要があります。

バスの停留所は、高速道路上の通過車の走行を妨げないように、高速道路本線から分離して設置します。フラットホームの長さは六〇米が標準です。

◇インターチェンジ

一般道路から高速道路へ自動車が入出できる施設をインターチェンジと呼びます。

インターチェンジ以外の所からは自動車の出入りできません。

◇車線数

車線数は、東京都世田谷区から神奈川県足柄上郡松田町までを六車線、同町から静岡市まで四車線、豊川市から小牧市まで

昭和三十八年二月一日現在住民登録調べ

◇人口総数

五〇、四七〇人

男……二五、六八八人

女……二四、七八二